



コロナ禍で大変な思いをしているのは大人だけではありません。

2020年、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、誰もが体験したことのない1年を過ごすことになりました。
緊急事態宣言における外出自粛や一斉休校による生活の変化、テレワークなどで勤務が変化した家庭もあり、今までとは違う生活サイクルに戸惑った方も多かったのではないのでしょうか？

外出先で人目が気になったり、生活スタイルが変化したことで自宅も落ち着かなく感じたり、毎年行っていた旅行に行けなかったり、先行きの見えない不安や気疲れ、ストレスを、大人の私たちは少なからず感じています。

では、子ども達はどのようなのでしょうか。休校中は、家にいることが多く友達ともなかなか会うことができないう日々、また、学校が再開後も、制限のある学校生活です。そんな一変した生活にも多くの子ども達は、短時間で順応していきました。しかし、元気に登校している子ども達の中から不安やストレスが完全に取除かれたわけではありません。

普段より甘えてきたり、イライラする様子が増えたり、必要以上に手洗いにこだわったりしている様子はありませんか？

もしかしら、目に見えない不安やストレスを抱えているのかもしれない。

大人も子どもも急速に変化した生活に、戸惑うのは当たり前です。

その当たり前の不安や感情を上手に整理するには、「人に話すこと」が一つの助けとなります。

そこでまずは、お子さんがコロナをどう思っているのか、どんな気持ちで過ごしているのか、きいてあげる時間を取ってください。



○相談窓口（子どもの権利に関する相談リンク集）

子どもに関して、いろいろな悩みを相談できる各種窓口があります！接し方やきょうだいげんか、成長・進路に関する悩みなど、一人で悩まず、どんなことでもご相談ください！

相談窓口
子どもの権利に関する相談リンク集



○小金井市子どもの権利に関する条例って？

小金井市では、子どもの権利を保障し、子どもの健やかな成長を願って、平成21年に「小金井市子どもの権利に関する条例」を制定し、普及啓発しています。

小金井市
子どもの権利に関する条例



市ホームページ → 子育て・教育 → 子どもの権利 から検索！

小金井市青少年問題協議会（令和3年6月発行）
小ホームページ <https://www.city.koganei.lg.jp/>
市政→審議会等→審議会等の一覧→福祉・健康・医療に関する審議会→青少年問題協議会から、過去に発行されたリーフレットもご覧いただけます。



※お問い合わせ先を必ずご確認ください。

コロナ禍だからこそ

子どもの思いをきいていきますか？

○困ったり、つらい時、誰に相談しますか？（複数回答）



子どもの願い

子どもは、愛情をもって自分のことを考え、接してほしいと願っています。
子どもは、自分の意思を伝え、受け止められることを願っています。
子どもは、より良い環境で育ち育てられることを願っています。

（小金井市子どもの権利に関する条例「前文より」）

子どもは生まれた時から「安心して生きる権利」「自分らしく生きる権利」「豊かに育つ権利」意見を表明する権利「支援を受ける権利」を持っています。

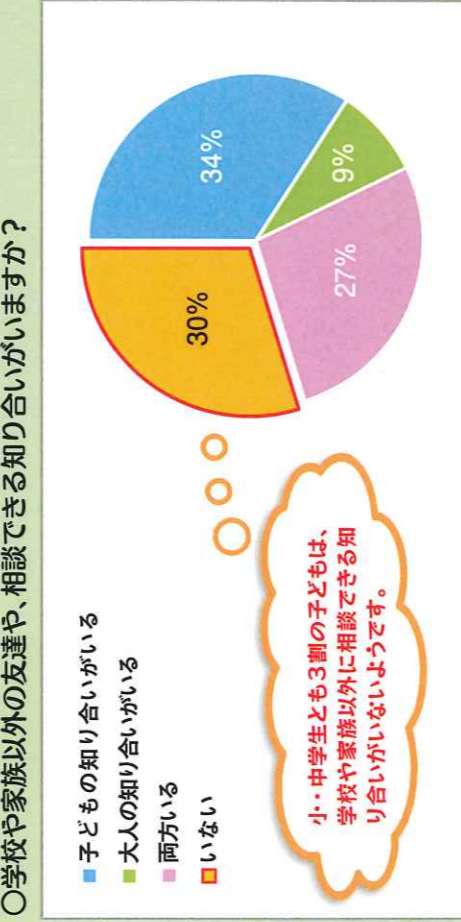
子どもの気持ちを、きちんと「きく」ことが、子どもを理解する第一歩です。

小金井市の子どもたちは今何を考え、どう感じているのか。子どもの権利の観点からその実態を探るべく、アンケート調査を実施しました。

<アンケート調査方法>

- 実施時期=令和元年10月
- 対象=全市立小学校(小4~小6)2,738人、全市立中学校(中1~中3)2,031人
- 回答数=小学生2,588人、中学生1,902人
- 回答率=小学生94.52%、中学生93.65%

※より詳しい調査内容は「子どもが安心して暮らすこと」を参照してください。

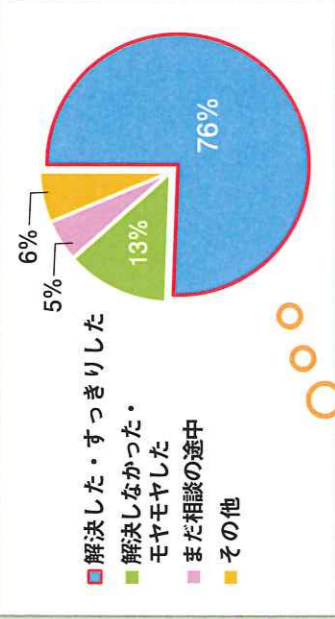


ここからわかるのは、知ることが多いが、知らないという声は少ないです。知ることが多いが、知らないという声は少ないです。知ることが多いが、知らないという声は少ないです。

○学校や家族以外の友達や、相談できるときは知り合いがいますか？

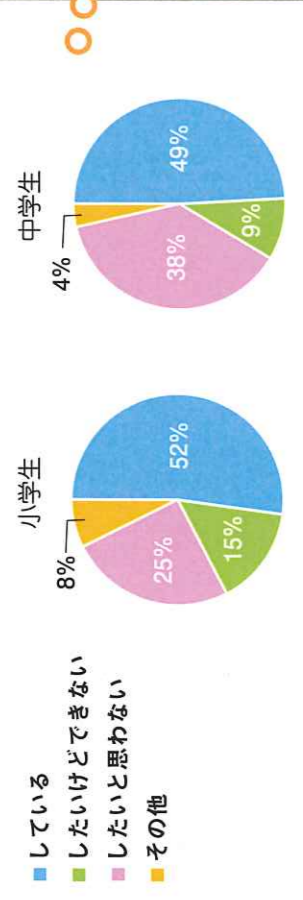


○相談した結果、どうなりましたか？（相談したことがある人のうち未回答を除く）



4人に3人は相談して解決した・すっきりしたと感じています。

どの学年でも2人に1人の子は悩みを相談していますが、小・中学生全体では8人に1人は「したいけどできない」と感じているようです。また、中学生になると「したいと思わない」子どもが増えるようです。

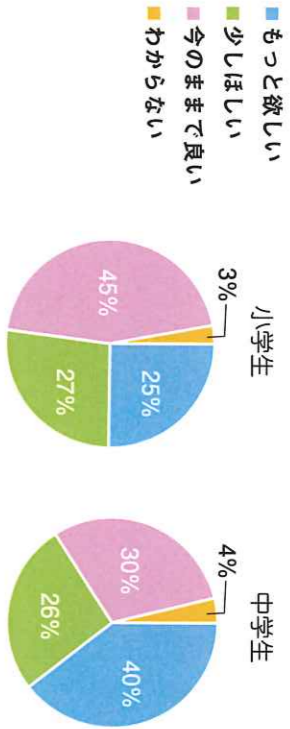


悩みに対する子どもの意識

子どもが思っていること

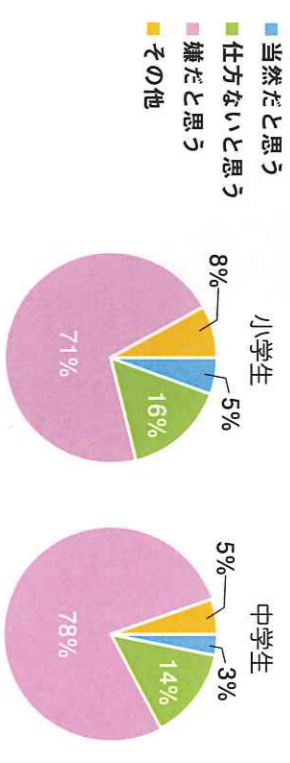
※裏面に「悩みに対する子どもの意識」があります。

○のんびりする時間が欲しいですか？

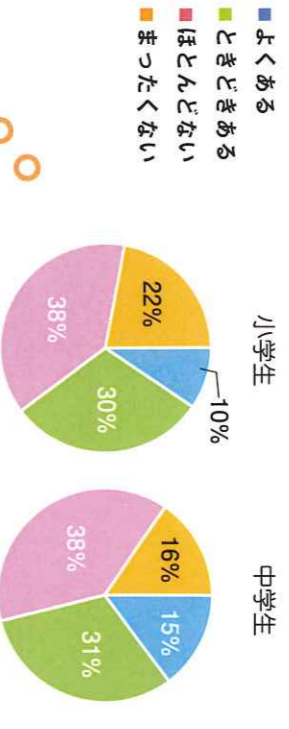


小学生の4人に1人、中学生になると約2人に1人がのんびりする時間が欲しいと感じています

○自分のやることや将来を親に決められることをどう思いますか？

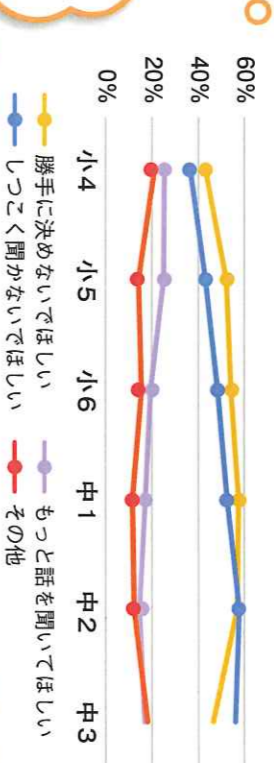


○学校に行きたくないと思ったことはありますか？



2人に1人は、勝手に決められることを嫌だと思っています。また、年齢が上がるにつれて、しつこく聞かないでほしいと思っようです

○大人に心掛けてほしいことは何ですか？ (複数回答)



- 「その他」の主な意見
- 考えを押し付けないでほしい
 - 相手の気持ちを考えてほしい
 - 謝るときは謝ってほしい
 - 聞き流さないでほしい
 - ない
 - 今のままでいい
 - 怒らないでほしい
 - 早く仕事から帰ってきてほしい
 - もっと関わってほしい

行きたくない理由の上位は勉強や友達のことでした。また、その他では、「疲れている・だるい・寝不足などの体の疲れや「面倒くさい」などの心の疲れを理由にする子どもが上位を占めています。

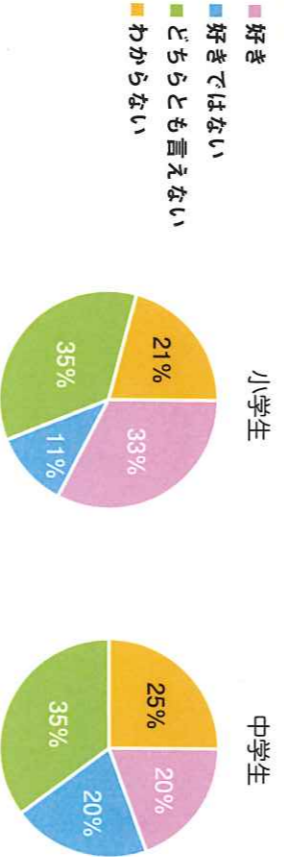
○「子どもが思っていること」について、調べたものです。

小学生は現状に満足している子どもの割合が大きく、中学生になると忙しいと感じているようになります。子どもの権利に関する条例を制定するために平成18年に調査した内容と比較すると、のんびりする時間が欲しいかという質問では、中学生はあまり差がなかったものの、小学生では「今のままでいい」と答えた子どもが8ポイント減り、今より自由時間を希望する子どもが8ポイント増えています。また、自分のやることや将来のことを親に勝手に決められるのは嫌だと感じている子どもは7割以上に上っています。ついつい口を出してしまったり、決めつけたりしていませんか？ 子どもも自分でいることを考えています。まずは考えていることを否定せず、一人の人間としてじっくり話を聞いてみてください。

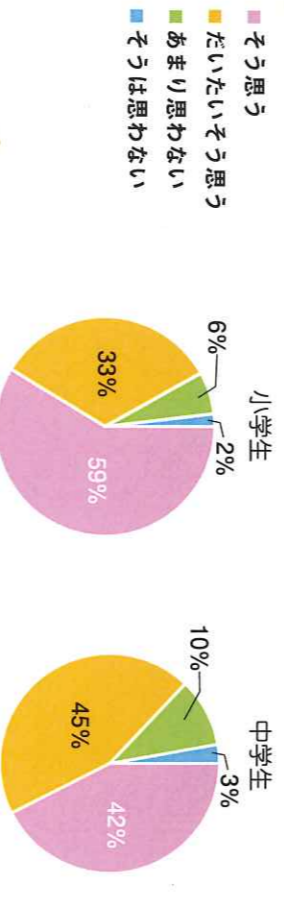


自己肯定感

○自分のことが好きですか？



○自分は周りの大人から大切にされていると感じますか？



9割前後の子どもたちが肯定的ですが、学年が上がるにつれ実感が減るようです。大切に思っていることを、言葉で伝えていきますか？

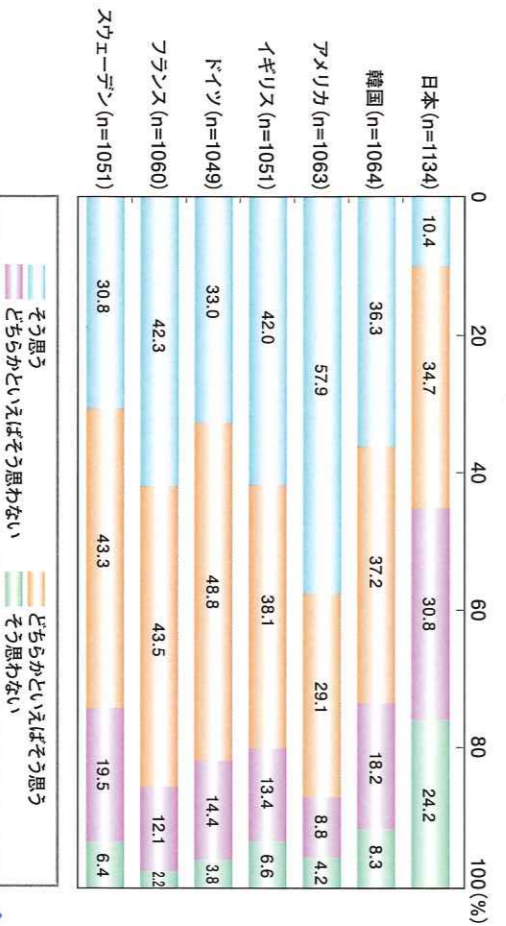
○相関関係を調べてみました。

「自分のことが好き」×「大切にされていると思う」
「大切にされていると思う」×「悩みを相談できている」

周リから大切にされていると実感できる子どもは、自分を肯定的に捉えることができている子どもが多いようです。また、悩みができた時に相談するかどうか、大切にされていると感じているかどうかと相関関係がありました。



○諸外国の状況 (自分自身に満足しているか)



出典：内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度)」図表3(a) 諸外国比較

小学生の3人に1人、中学生の5人に1人は自分を好きだと思っていますが、小学生の10人に1人、中学生の5人に1人が自分のことが好きではないと思っています。平成30年度の若者(13-29才)の国際比較調査では、日本の若者は、他国と比べて自分自身に満足している割合が最も低い結果でした。また、日本の若者の特徴として「自分が他者の役に立っているか(自己有用感)」が自己肯定感との相関が強いことが指摘されています。子どもも家族の一員です。家族の役に立っていると伝えるために、子どもに手伝いをお願いして、「ありがとう」「助かったよ」「よくできたね」とほめる声かけをしてみてください。

